

·般会計**決算**議案 に対する討論

各会派等が、一定のスペースで自由にまとめた ものを掲載しています。

9月29日の本会議で令和6年度一般会計決算議案に対する表決に先だち、 各会派等を代表して賛成・反対の討論が行われました。

討論は、自由民主党国分寺、立憲・市民フォーラム、国分寺・生活者ネッ トワーク、公明党、無会派(日本維新の会)、無会派(グリーンな国分寺)、 無会派(れいわ新選組)、無会派(日本共産党国分寺市議団)の順で行い ました。



「暮らし向上施策→人□増→安定税収」の道を 立憲・市民フォーラム〈4名〉 星 いつろう



%を市税(個人市民税・法人市民税・ 固定資産税・市たばこ税・都市計画税 等)が占める。市民の納税によって 市財政が成り立っていると言える。

- ★新築住宅の増を要因として、固定 資産税(87.7億円)、都市計画税(20.5 億円)と約3%伸びている。所得に 課す個人市民税(122.2億円)は、市 税収入の半分に至る。給与所得者の 納税義務者数(5.8万人)が前年度 比884人増であることも寄与してい る。市のどのような施策が、人口や 税収の増加に結びついたのか。その 検証を市は市民に示すべきである。
- ★財政の将来を考えるにあたり「施 策のスクラップ」よりも、前向きな 施策の展開を重視すべき。若い人た ちが希望をもてるまちづくりを推進 し、少子化を跳ね飛ばそう。そこに

★歳入(696.7億円·12.6%増)の36.2 お金はかかるけれども、若い世代が 増えれば、結果として市税の安定的 な確保につながり、市の未来を切り 拓いていく。

- ★この視点に立ち<mark>歳出</mark>(675.5億円 ・12.9%増)を検証した。
- ★スクールソーシャルワーカーの常 勤化を検討し、不登校によって疲弊 する子どもと保護者の支援につなげ ていただきたい。
- ★子どもの発達支援センター「つく しんぼ」において相談支援専門員の 定着をはかり、セルフプランからサ ービス利用計画への移行、計画作成 の新規受け入れに取り組み、障がい 児の成長過程を支えていただきたい。 ★プラスチック資源物の「一括収集・ 有料化」に反対をしてきた。ごみ減 量と財政効果にどうつながっている のか検証を求める。



市民に寄り添う、前向きで希望溢れるまちを 公明党〈3名〉 久保 けいこ

庁舎建設・移転という次への10年に 向かっての大切な節目の年度。変化 多き緊張感の中、機動的に市民生活 や市内事業者を下支えする施策等を 実行されたことを評価。

財政面では、各指標がおおむね良好 であり、堅実な財政運営を評価する。 経常収支比率は前年度と同率で、公 債費負担比率が前年度から0.5ポイ ント改善となった事は評価。財政調 整基金をはじめ基金残高が減となっ た事と今後の公共施設マネジメント 等の事業推進が続いていく事を見据 え、今後も基金積み立てへの地道な ご努力を求む。新庁舎での全般にわ たる事務の電子化・システム改善等 摘事項については、再発防止に向け たご努力を求める。

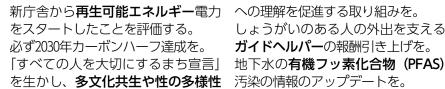
令和6年度は、市政施行60周年と新 市の施策全般では、学校給食費無償 化、切れ目のない子育て支援、こど も家庭センター設置準備、がん患者 アピアランスケア支援、認知症普及 啓発、在宅レスパイト・就労等支援、 平和事業の推進、観光プロモーショ ン制作事業、フードシェアリング推 進、包括施設管理委託事業の拡大、 二次元コード付きカード型地域応援 商品券事務事業、学校水泳指導の委 託事業、新庁舎整備とデジタル化推 進、市政施行60周年記念事業など積

極的に展開された。 以上、令和6年度の決算は、財政規 律を堅持した上で、市民ニーズへの 的確な対応が進められたと評価。 今後も市民生活に寄り添い、守りな 成果に期待。一方で、監査委員の指がら、さらなる目標を掲げ、朗らか に業務にあたっていただくことを求 め賛成とする。



賛成

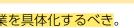
もっと!暮らしと環境を守る取り組みを 無会派(グリーンな国分寺)(1名) 鈴木 ちひろ



しょうがいのある人の外出を支える ガイドヘルパーの報酬引き上げを。



市民負担増ではなく物価高騰への支援充実を 無会派(日本共産党国分寺市議団)(1名) 中山 ごう





まちづくりと市民へのケアのバランスを評価 自由民主党国分寺〈6名〉 対馬 ふみあき



令和6年度の一般会計決算は、歳入 かりと執行しつつアピアランスケ 決算額696億7189万2874円に対し、 歳出決算額675億5529万9446円とな った。執行率96.4%、繰越明許額が 6000万円を切っていることはゼロベ ースからの予算の積み上げがしっか りと機能しているということであ り、評価する。また、昨年度に比べ 歳入総額が12.6%増加したことに対 し、歳出総額が12.9%の増となって いるにも関わらず経常収支比率が昨 年度と同様の95.7%を維持したこと は国分寺市の財政規模が拡大したと しても安定性を確保できているとい うことの証左であると評価できる。 令和6年度は新庁舎建設や市政施行 60周年を迎えるにあたり様々な形で 市の魅力を発信するなど国分寺市に とって非常に大きな節目を迎えた年 であり、これらに必要な経費をしっ

ア、子ども家庭センター、多胎児妊 婦健診の追加補助など「まちづくり とまちに住まう市民へのケア」のバ ランスが取れた事業構成であったと 非常に高く評価している。

一方で将来世代負担比率が毎年上昇 しており、令和6年度の有形固定資産 減価償却率は新庁舎建設により8.2% 下がって55.2%となっているものの、 今後公共施設の点検次第でこの償却 率が変化する可能性があるため今後 も注視が必要な状況であると考える。 基金については計画的な積み増しが 必要で、令和6年度の不用額は約24 億4000万円となっており、決算額に 対し約3.6%という数字は決して高 い数字ではないものの、計画的な積 み立てのためにこの数字をなるべく 減らすべきと考える。



新庁舎にふさわしい、信頼される市政運営を 国分寺・生活者ネットワーク〈3名〉 小坂 まさ代

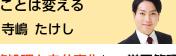


令和6年度の実質収支は約20億5千 かけたくなる場となるようさらなる 万円の黒字となったが、基金残高は 前年度から約47億円減少し100億 4,525万円。地方債の年度末未償還額 は350億6,184万円となり将来負担比 率は15.3%から54.7%へと大幅に上 昇。非常に厳しい資金繰りだったが、 市中からの借入を行わなかったこと、 財政力指数が引き続き1点台となっ たことを評価。激しい物価高騰の中、 新庁舎建設という大事業を進め、財 政運営上でも節目となる1年だった と考える。■PFASについて。他の自 治体より早く、むかしの井戸のPFAS 調査を始めて5年。令和6年度から はPFHxSの調査も実施。他自治体と 情報共有し、都の調査結果も含め汚 染の状況分析を■認知症施策につい て。気軽に利用できる相談や憩いの 場としての認知症カフェは重要。出 て検討を求め、賛成の討論とする。

工夫を**■一時保育について**。前年度 に比べ利用人数・施設数ともに増加 し、拡充が進んだ点を評価。多様な 保育サービスにより選択肢は広がる 一方、制度の複雑化で利用者が戸惑 う懸念も。今後もニーズに応じた保 育環境の整備とサービスのわかりや すい周知を**■放課後子どもプラン**。 年間延べ参加者数は前年度比6,238人 増の91,765人。実施回数全体は前年 度より増えたが、学校間の開催回数 の差はさらに拡大。猛暑等により室 内の居場所の重要性が増している。 学校から理解と協力を得られるよう 尽力を**※令和11年度には基金が55億** 円にまで減少すると推計されている。 地方債とのバランスをとり、社会情 勢に対応できる基金のあり方につい



守るべきものは守り変えるべきことは変える 無会派(日本維新の会)(1名) 寺嶋 たけし



- ◆余力の無い財務状況で、収支均衡 ◆財務処理を自分事化し、**厳正管理** の健全財政維持を評価。
- 将来世代への投資施策等)を要望。
- **を徹底**する意識醸成と仕組化を。
- ◆人□構造変化(歳入減歳出増)に ◆新施策発掘と磨き上げ並びに、不 備え、縮小最適回避の施策(現役・ 要施策の見直し推進による<mark>市政発展</mark> への挑戦を新市長に大いに期待。



人や公共施設にもっとおカネを!

無会派(れいわ新選組)(1名) 高野 ふみお



積立金は主に**新庁舎**の分で約40億円 **育休応援、先生の市正規雇用**などだ。 減少、その分が**地方債**の増となった。 **防災**対応は**お金を借りて**でも**すぐや** この方向でお金は貯め込まず**積極的 る**べき。**ぶんバス値上げ**や<mark>プラごみ</mark> に財政を使うべきだ。思い切った<mark>人 袋有料化</mark>など<mark>市民負担増</mark>でなく、<mark>人</mark> **への投資、非正規市職員の処遇改善、 への投資**で維持・発展を。

